

校長会報

令和3年度 第2号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL (0852) 27-8530
FAX (0852) 67-3360

島根の強みを活かした教育を



島根県教育庁 教育監

柿本 章

校長先生方におかれましては、新学習指導要領で求められている教育の質の向上と一方では働き方改革という、ある意味で二律背反するものを両立させるという難しい課題に直面しながら学校経営に取り組んでおられることに、敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、高校の話になりますが、県立高校では「高校魅力化コンソーシアム」を設立し、地域住民、小・中学校、大学、企業、行政機関など様々な方に参画してもらい、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。また全ての高校で地域

課題解決型学習（探究学習）に取り組んでいます。この中でもコンソーシアムの方々に関わってもらっています。私は昨年度まで高校現場で生徒が探究学習に取り組む様子を見てきました。勤務校では三、四人がグループになり一年間かけて自分たちが設定したテーマで探究学習を行いました。主体的に取り組むグループとそうでないグループに分かれていきま

した。この違いはどうして起こるのだろうか、と振り返ってみたとき、一番の違いは「課題が自分事になっているか

うか」にあったのではないかと思えます。

グループには教員だけでなく、テーマに精通した地域の方にも関わってもらいましたが、主体的に活動したグループでは、大人たちから「なぜ？ どうして？ 本当にそうなの？」と繰り返し問われ、自分の考えをどんどん深掘りしている生徒の姿が見られました。こういう活動を繰り返しているうちに課題が徐々に自分事になっていったように思います。

周りの大人自身も探究心を持ちながら生徒の「壁打ち」相手になることが、生徒の学びを深めることに繋がるのだと感じたところです。主体的に探究学習に取り組むことは探究の質を高めるだけでなく、それ以外の部分でも生徒を成長させています。生徒に直接話を聞いてみると、「探究以外の部分でも『考える』というところが好きになった。」「普段の授業の中でも『なぜ？ どうして？』と考えるようになった。」「自分の興味があることについて深く考えたことで将来やりたいことが見えてきた。」という答えが返ってきました。

自らキャリアを形成する姿も見られるようになってきています。島根には各地域に豊かな自然、歴史・伝統、文化、産業があり、何より子どもたちを温かく支え、育てようとする地域社会が今なお残っているという「強み」があります。小学校ではこれまで「生活科」や「総合的な学習の時間」において、地域の様々な人々や身近な自然との関わり、様々な経験を重ねる活動を行ってきておられます。

今後この「強み」を活かし、島根の子どもたち一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要な力を育んでいかなければなりません。そのためには、学校・家庭・地域で教育活動の目的や目標を共有することはもちろんですが、その目標を達成するためには子どもを取り巻く大人がどのように関わっていけばいいのか、そういう視点をさらに大切にしたいのだと思います。

また、それぞれの地域において各種で子どもたちに身につけたい力を共有した上で学習を進め、その成果を共有することで系統的で連続した学びが充実します。

今後は地域との関わりという横の連携だけでなく、校種を貫いた縦の連携が進むよう、県教育委員会としても取り組んでいきたいと考えています。

仁多支部

農家の一室、寺子屋から始まった

ちっちゃな学校のでっかい挑戦

『高尾小学校』に『こころ寄席』

校長 桑山 悟

(奥出雲町立高尾小学校)



高尾小学校は、明治十年一月十日、先覚者 川島俊蔵氏が、私邸を校舎や先生の宿として開放して創立され、今年度で一四五年目を迎える。

昭和五十一年に発行された「創立百周年記念誌」には、明治・大正・昭和を通じて、幾多の困難を乗り越えてきた歴史が記されている。校舎が消失した時には、近隣の方が新築間もない納屋を教室として提供されたり、校庭拡張に当たっては、先祖伝来の畑を提供されたりと、地域先人の学校教育に対する熱意と努力によって培われてきた、高尾小学校精神の記録でもある。

新学習指導要領の理念は「社会に開かれた教育課程」の実現であるが、その内容は、当時の第三五代校長の寄稿文に記されたものと一致している。

『先輩に続け！と、今日も伊賀平山の麓は、元氣溼刺、百一年の教育活動を展開しています「子どもを主役にした教育の実践」このこと

神が学校・家庭・社会の一致結束の姿で顕現されることを希ってやみません。』と。

本年度、全校児童六名の極小規模校だが、学校地域一体となった教育活動は個に応じた児童の主体性を育む活動へと進化した。

平成二五年、若葉学級から始まった落語活動は全校落語へと発展する。「座布団一枚あれば、どんなに少ないお客さんでも、どんなに小さい会場でも最高をめざして演じる」という心構えとともに、落語のネタを磨く表現力の向上、高座で場数を踏む人前で物怖じしないたくましい心の育成、マクラ(本題前の話)作成、自己表現力の育成をめざし「こころ寄席」と銘打った活動を展開している。発当初は地元の集会所や校内で寄席を開催したり、お年寄り宅を訪問して落語を披露したりして、高尾地区の多くの方々との交流を深めていった。

現在、保護者の強力なサポート体制や地域住民の絶大な支援により、高尾地区を飛び出し、東京・広島など、県内外を問わず幅広く活動している。

地域の学校に対する熱い思いに最大限応えていくことが、社会に開かれた教育課程の実現には欠かせない。

こころ寄席は、子どもと地域・社会をつなぐでっかい教育の柱である。

シリーズ特集 **社会に開かれた教育課程**

邑南支部

「社会に開かれた教育課程」と

「私は社会に開かれた教員」ですか？

校長 三島 伸 仁

(邑南町立日貫小学校)

私達の日貫小学校は明治七年に開校し、百五十周年を間近に迎える「名門」なのだが、今年度は児童数九名、職員数六名の極小規模校である。

全児童九名で「多様な価値観」に触れるためには「社会に開かれた教育課程」と言わずとも地域に活路を見いださざるを得ない。

「日貫地区四百人の方全員が先生」「日貫地域全域が学校」なのである。

さて、「地域に開かれた教育課程」は、「地域とともにある学校」を目指すものだが、「学校とともにある地域」と両輪でなければならぬ。なぜなら、学校と地域、どちらか一方がこけたら、もう一方もやがてこけてしまうであろうからである。日貫は住民も児童も減少し厳しい状況にある。地域も学校もどちらもこけられない中、「日貫という場所で勤務する自分に何ができるのか」「学校が地域に貢献

できることは何か」と日々悩む。

一方で、「地域と学校が一緒に活動すること」にこだわらず、「地域のお祝い事は学校のお祝い事」「学校のお祝い事は地域のお祝い事」、そんな意識を地域と学校とで共有できれば、ことさら「地域に開かれた教育課程」と言わなくても幸せな関係が築け、心豊かな日貫っ子が育つのではなからうかとも思うのである。

ところで、「地域に開かれた教育課程」以前に我々は「地域に開かれた教員」だろうか。私は常に自問し悩んでいる。学校の希望だけをお願いしてはいないだろうか、地域の思いをしっかりと受け止めているだろうか。時に深く反省する日もある。

こうしてみると、「社会に開かれた教育課程」の編成にあたっては、学校が地域においてどういう存在であるかが重要ではなからうか。つまり、日々の教育活動と児童に愚直に向き合い、学校も地域の中の一施設として、地域の発展のために貢献する、そのような取組なくして「地域に開かれた教育課程」など不可能ではないか。「社会に開かれた教育課程」を編成するということは、学校の在り方と、日々の学校への信頼が問われる、非常にシビアなものと思

学校紹介

「校訓」 鳳鳴朝陽

逞しく(自律) 睦まじく(共生) みち拓く(創造)

梶谷

悟 (出雲市立朝陽小学校)

令和三年四月、約百五十年の歴史と伝統を引き継ぐ檜山小学校、東小学校の両校が統合し、新たに朝陽小学校が誕生しました。児童数は二百十二名で、一畑電鉄湖遊館新駅近くに建つ校舎からは、美しい宍道湖と広大な簸川平野を臨むことができます。

朝陽小学校の開校にあたり、統合する二校の校長二人でこだわったのが、「校訓」を掲げることです。校長が変わっても、これから先、何年後、何十年後になっても、開校時のこんな学校にしたいという願いは変えたくないという気持ちから、学校の道標とも言える「校訓」をつくりました。参考にしたのは校名と校歌でした。

『鳳鳴朝陽』この熟語は、中国最古の詩をつづった「詩経」が典故とされています。世の中が平和なことを示すめでたいしるし。または、すぐれた能力のある人が大きな志を発揮する機会を得ること。すぐれた才能や行動のたとえ、を意味しています。

『逞しく』『睦まじく』『みち拓く』この三つの言葉は、校歌の歌詞にあります。ゼロからの出発だからこそ、何ごとも好機(チャンス)ととらえ、あきらめずに挑戦(チャレンジ)し、自

分自身の成長・変容(チェンジ)を実感するという逞しさ。檜山小学校と東小学校が一つになったからこそ、よりいっそう人と人とのつながり、心と心のつながり、学びと学びのつながりを用意しながら共に生きていこうとする睦まじさ。宍道湖から昇る朝陽のように、光り輝き、明るくあたたかい、そんな朝陽小学校をつくること、そんな朝陽の子を育てていくことが、変化の激しい時代の中、これからの道を拓くことにつながっていく。

朝陽小学校に通う児童だけでなく、教職員も、保護者も、檜山・東両地区の皆さん、みんなが高い志をもって切磋琢磨できる学校。また、児童一人一人の願いの実現に向けて、学びや育ちが保障された学校。そんな朝陽小学校をつくっていきたい。それが「校訓」に込めた願いです。新たな歴史が始まります。

切磋琢磨できる学校。また、児童一人一人の願いの実現に向けて、学びや育ちが保障された学校。そんな朝陽小学校をつくっていきたい。それが「校訓」に込めた願いです。新たな歴史が始まります。



学校紹介

ICTを活用して 自ら学ぶ力を育む

生越

徹 (美郷町立邑智小学校)

「まずはこの動画を見てください」 「動画に合わせて一緒に踊りましょう」運動会練習が始まった二期期のはじめ、それぞれの色組リーダーになる六年生は下学年の子どもたちに張り切って指示を出しています。

新型コロナウイルス感染防止の観点から運動会の応援合戦は声を出さずにリズムダンスを中心とした内容に、色組ごとの応援練習は全校が集まらずに各学年で行うことにしました。

六年生は各学年にダンスを教え、まとまった演技にするためにはどうすればいいのか考え、自分たちが踊ったダンスを動画に撮り、各学級の電子黒板に映して指導する方法にたどり着きました。

鳥根県の中央部中山間地域にある本校は全校百四十七名。子どもたちは地域の方々の温かいまなざしの中のびのびと成長しています。美郷町は「これからの予測困難な時代を生き抜くために、インターネット等の様々なメディアから得た情報を、主体的に活用しながら学び続ける人になって欲しい」との想いから、平成二十七年度に学校の敷地内を無線ネットワーク化。それにあわせ、各学級に電子黒板を整備

し、一人一台のタブレットPCを貸与して、子どもたちがICTを十分に活用できる環境を整えました。

その後、本校では授業の内外問わず、様々な場面でICTを活用するようになり、今ではICTが日常の学校生活に溶け込んでいます。

例えば、授業中には自分の課題についてインターネットで調べ、プレゼンテーションソフトでまとめる活動を行ったり、動画編集ソフトを活用して、自分が撮影した動画にナレーションを吹き込む学習を取り入れたりしています。また、委員会活動や掃除の時間にもタブレットPCを活用する場面を見かけます。

今後は、タブレットPCを家庭に持ち帰った際に、子どもたちがより主体的に学べるように、また、教職員にとつての働き方改革のために、より効果的な活用方法を探っていくと考えています。



事務局便り

事務局長 高橋和弘

(松江市立大野小学校)

島根県小学校長会第二回理事会(報告)

六月十八日に標記の会を開催しました。今年度も新型コロナウイルス感染症予防対策を講じての開催となりました。主な点について報告します。

○島根県小学校長会教育研究大会飯石大会の誌上開催について、山碓飯石郡理事より提案説明があり承認を得ました。十月一日の開催に向けて飯石郡小学校長会四名が取り組んでこられたご努力に十分応えることができなかつたこと、各分科会発表の校長先生方にも対面での発表の場を提供できなかったことに対して、県小学校長会からも心よりお詫び申し上げます。

○令和四年度全連小島根大会の進捗状況の説明がありました。越野会長より、大会大綱の修正についての説明がありました。参加者規模を二二〇〇人から一一〇〇人程度に半減すること、会場を島根県民会館周辺にすることなどが提案されました。中国理事会を経て全連小理事会で承認される予定です。

○総務、調査研究、対策、広報の各部会を実施し、今年度の各部の活動等について協議を行いました。

島根県小学校長会第一回常任理事会(報告)

七月二十一日に標記の会を開催しました。主な点を報告いたします。

○島根県教育委員会と県小学校長との意見交換会の二つのテーマ及び二人の話題提供者を決定しました。

中国地区小学校長会第一回理事会・研修会について(報告)

七月三十日広島県において開催される予定でしたが、各県リモート会場でのオンライン開催となりました。本県は、サンラポーむらくもで行いました。越野会長以下十名が参加しました。

○全連小常任理事会報告(越野常任理事より) 第三回、第四回の報告がありました。大字会長のあいさつを中心に、国の動向や石川大会について、また予算執行状況などが報告されました。

○協議

・第六八回中国地区大会広島大会について、誌上発表大会にすることが提案され承認されました。

・第七四回全連小島根大会について、大会大綱の修正について提案説明があり承認されました。

・第七〇回中国地区大会鳥取大会について、期日及び会場等の提案があり承認されました。

○調査事項及び情報交換

・三五人学級の実施状況や教科担任制の実施状況、GIGAスクール構想

における取組状況、新型コロナウイルス感染症対応状況など各県の実態を情報交換しました。

島根県小学校長会第三回理事会(報告)

八月六日、標記の会を開催しました。今年度も感染予防のため一日開催となりました。主な点について報告します。

○全連小常任理事会の報告及び中国理事会の報告の後、全連小島根大会について、越野会長より大会大綱の修正について説明がありました。また、県教委との意見交換会についての事前打ち合わせも行いました。

○事務局幹事より、全連小調査への対応依頼や、教育記録の取り扱いについての説明がありました。

○各部会ごとにランチミーティング形式での部会を開き、協議や情報交換を行いました。

県教育委員会との意見交換会(報告)

八月六日の第三回理事会の午後に県教委との意見交換会を行い、①「教職員を取り巻く現状について(児童の実態・家庭環境、長時間勤務、メンタルヘルス、働き方改革、小学校の教科担任制について等)」②「GIGAスクール構想に基づくICT活用教育について」の二つの話題で県教委の皆さんと意見交換をしました。

①については、大橋大常任理事(益田・高津小)から、勤務校の経営状況について不登校ゼロの実態や職員のチ

ームとしての意識の高さ、二学期制の取り組み、加配の有効活用などの参考になる話の後、意見交換を行いました。

②については、福本美由紀常任理事(隠岐・磯小)から、勤務校の整備状況の実態に合わせて多様な隠岐郡内の状況も話していただきました。タブレットは便利な道具だが、ICTを活用して子どもたちにつけさせたい力はどういうそもその疑問も出ました。

県教委からも、情報提供や施策についての説明、具体的な取組についての感想等をいただく中で、各理事からの思いのこもった話題も提供され、とても有意義な時間となりました。※サンラポーむらくもで感染対策の上実施しています。

編集後記

世界中から多くの選手が集った東京オリンピック・パラリンピックも無事閉幕しました。連日熱戦が繰り広げられ、多くのドラマや感動が生まれました。

学校でも二学期は多くの行事が行われます。コロナ禍で制約を受けながらですが、そういう中でも子どもたちが一人一人の物語を紡いでいってくれることを祈っています。

ご多用の中、ご寄稿いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

(松尾)